



シリーズ病診連携

みんなの健康づくり

～食事・治療・歯・薬を考える～

教えて！ 健康のコツ

小笠掛川歯科医師会 その6
(☎22-6120・FAX22-1567)

歯並びの悪さが体のトラブルの原因に きれいな歯で健康生活

不正咬合とは

自分の歯並び、お子さんの歯並びをじっくり見たことがありますか。不正咬合とは、正しく噛み合わせができない歯並びのことをいいます。その原因としては、遺伝による先天的な要素のほか、子どもころの指しゃぶりや乳歯の虫歯、口呼吸、噛み癖など、後天的な要素が挙げられます。

不正咬合の問題点

○歯磨きがしづらい
汚れが取れにくく、虫歯、歯周病の原因となります。

○噛む能力が低い

しっかり噛んでいる歯よりも、実際には使われていない歯がたくさんあります。一般的に、人には親知らずを除いて全部で28本の歯がありますが、10から15本も使っていないケースも多くあります。

噛むことは、脳の発達に重要であるといわれています。学力や運動能力の低下のほか、著しい偏食の原因にもなりかねません。

○心理的な悪影響

人前で話す、笑うということに対して、劣等感を抱くことがあります。

これらのほかに、発音や姿勢、あごの関節に悪影響を与えることもあります。

不正咬合の治療法

歯科医院で検査を受け、治療計画を立てます。歯は、全部の歯がきれいに並び、上手に噛めることが理想です。そのため、現在ある歯すべてで噛むことを第一に目指します。

治療法としては、針金などで少しずつ歯並びを矯正します。やむなく、歯の数を減らさなければならぬ場合もあります。

歯は生涯使い、生きていくために必要な体の道具です。特に、子どもにとっては、これから何十年と使うものです。一度、歯をじっくりと見て、少しでも不安な点があれば、歯科医院に相談してみよう。

このような症状はありませんか

歯並びをチェックしてみましょう。

- 犬歯や八重歯がはみ出すなど、でこぼこしている
- 上の歯が、下の歯よりも前に突き出ている
- 下の歯が上の歯よりも前にあって、上下の歯の噛み合わせが逆になっている
- 噛んだときに下の前歯が見えなくなってしまうほど、上と下の前歯が前後に大きな差がある
- 奥歯を噛んでも、前歯に透き間があいている

これらは不正咬合の症状です。

いずれかに当てはまるのであれば、受診が必要です。



▲でこぼこした歯並びの例